

S1-B3

Fujitsu Experience Day 2026

自社で育てるソブリンAI、 競争優位に導く実践的アプローチ

ロート製薬株式会社
生産技術部 副部長
兼 サプライチェーンアシスタントコーディネーター
兼 DX/AI推進室 兼 ヒューマノイド開発PJ

固城 浩幸様

富士通株式会社
サービスインフラ事業本部長
関根 久幸

2026年7月15日





関根 久幸

富士通株式会社
サービスインフラ事業本部長

【経歴】

出身 長野県 長野市

経歴 1989年 富士通入社 通信（交換機）部門

1996年 FSL出向、シンガポール駐在

2015年 ネットワークソリューション事業本部長

2020年 ネットワークサービス事業本部長

2021年 DC・クラウドサービス事業本部長

富士通クラウドテクノロジーズ 代表取締役社長

2023年 サービスインフラ事業本部長 （現在に至る）

01

自社で育てる「ソブリンAI」

02

AI活用の実践的アプローチ事例

- ・社内実践事例
- ・ロート製薬様株式会社様 事例
- ・ロート製薬様株式会社様との対談

03

まとめ

自社で育てる「ソブリンAI」

海外クラウド利用による 機密情報漏洩リスク



大手製造業のプログラム情報
サポート業務での個人情報

AIモデルを狙った サイバー攻撃リスク



GitHubに仕込まれたプロンプトで
開発者環境4,000台が感染

利用が制限される 地政学リスク



米政府の指令により、
AIモデルのアクセス停止

これらのリスクを理由に“業務に入れられない”
AIのデータやモデルの“ソブリンティ”が重要に

期待が高い一方、組織の業務プロセスに組み込まれている企業は少ない（13%*）

*IPA DX動向2025より

個人
（自分で使う）

ワークフロー化
（業務に組み込む）

システム連携
（システムとして動かす）

62%*



文章、検索



申請、審査



顧客対応、設計、品質管理

13%*

定型/汎用

高度/専門

多くの企業が“個人利用”で止まっていませんか？
この状態のままでは、AIを使える企業と使えない企業で差が拡大

業務にAIを本格的に活用するには

AIの業務活用を本格的にするときの課題は「ソブリン」「開発・運用」
これだけでは進まない、加えて「実践的アプローチ」も重要

自社で育てるソブリンAI

ソブリン

培ってきたノウハウの流出を防ぎ
機密情報を守れるか

開発・運用

継続的なAIの成長
～**自律環境**～

実践的な導入

アプローチ

- ・対象**業務**
- ・業務に**応じた**AI最適化
- ・**導入**／**継続**判断

“どの業務にどう使うか”を決めないと進まない
AIの差は、技術ではなく“業務に入れたかどうか”で決まる

ソブリン

判断 1



安心して使えるか

- AIを使わないことは最大のリスク。
セキュリティリスクとのバランスが重要
- データの機密度に応じた**基盤**が必要

開発・運用

判断 2



業務に入れて
回し続けられるか

- 需要予測で**ベテランの動き**の学習を検討
- 特有の用語や**業務コンテキスト**に
AIが十分対応できない
- 学習継続性や再検証など**運用面が不安**

アプローチ

判断 3



具体的に
どのように進めるか

- AIによる**失敗が怖い**という心理的障壁
- 検索スピード等が向上しても、具体的な
事業成果にどう結びつくかが見えにくい
- コンタクトセンターを検討、**成果のKPI化**
はこれからの課題だが、**AIの進化**に期待

“進め方が定まっていない”ことが原因
まずこの3つの判断からはじめる

AIを業務で使うための基盤

機密情報を守れ、業務に最適なAI基盤：
使えるAIではなく **責任をもって使い続けられるAI**



データのコントロール

データ利用範囲をコントロール
データ流出を制御抑制

AIを業務で使うために
必要な **5** つのこと



責任・ガバナンス構造

責任の明確化
リスク評価・監査・ルール



開発・運用

AIを自社業務に合わせる
継続的な運用



判断の透明性

ログ・根拠・履歴の保存
説明可能



継続的な改善

業務合わせて改善し進化し続ける
モデル精度劣化、バイアス監視

この5つを個別にではなく一体として統合したときに価値が出せる。
どれか1つ欠けても成立しない。

構成要素：富士通LLM「Takane」

AIを業務に適用させ、業務文脈を理解させるための仕組み

ソブリンAI

アプローチ

Takane

Fujitsu LLM / Secure Enterprise AI

Takaneにより実現できること

業務文脈を理解し

業務に特化したAIを

安全に活用する

世界一の日本語性能

日本語・業務文脈の理解に強み

業務特化型LLM

自社知識を反映

機密情報を外部に出さない

オンプレミス環境で安全に活用

構成要素：「Fujitsu Kozuchi Enterprise AI Factory」

自社内で生成AIの開発～運用ができる仕組み【専有型AIプラットフォーム】

ソブリンAI

アプローチ

ビジネス活動
(業務部門)



Fujitsu Kozuchi Enterprise AI Factory

LLM業務特化カスタマイズ

AIエージェント開発

インフラ運用

セキュリティ

システム運用
(IT部門)



Enterprise AI Factoryにより実現できること（先端AI技術活用例）

業務に合わせたAIを

最適なインフラ資源で

安全に活用する

自己進化ファインチューニング

短期間で開発
継続的に改善

モデルを軽量化

ハイエンドGPU4枚
→ローエンドGPU1枚

業界トップ

9千超のLLM脆弱性を
検知・防御

競争優位に導く実践的アプローチ

01

どの業務をAIに任せるか？



勝てる業務から着手

- 定型度が高く、短期間で効果が見える業務から始める

(例：問い合わせ対応、帳票処理)

02

どのレベルのAIが必要か？



チャット

»



RAG

»



エージェント

業務特性に応じてAIを使い分け

- チャット、RAG、エージェントを段階的に適用する

(例：社内検索：チャット、対応対応精度向上：RAG)

03

成果が出たか？続けるか？



KPIで判断し続ける

- 「できるか」ではなく「成果」で判断

(例：対応時間削減、品質向上)



まず、自部門でこの3つを判断してください。
この後の事例は、“どの業務を選び、どう設計し、どう成果を判断したか”
という3つの観点で見てください。

皆さんの業務では
まずどれをAIに
任せますか？

AI活用の実践アプローチ事例

3つの観点

1. なぜその業務を選んだのか

効果が見えやすいか／業務課題が明確か／現場が困っているか

2. なぜそのAI構成にしたのか

データの機密性／求める精度／既存システムとの連携

3. 何を成果として判断したのか

工数削減／品質向上／リードタイム短縮／継続展開の可否

「すごいAI」ではなく「始め方・設計・判断」の型として見ていただき、
1つでも自分の業務に当てはめてみてください

今回は「人×AI ➡ 業務 ➡ 企業全体」の順で見させていただきます

1

【富士通社内実践】
全社表彰審査



2

【富士通社内実践】
ヘルプデスク業務



3

【ロート製薬株式会社様事例】
サプライチェーンの最適化



企業がAIを競争力に変えていくとき、AI活用がどのように広がっていくのかを見させていただきます。
この流れそのものが、AI活用の進化です。

1

【富士通社内実践】 全社表彰審査

“AIをどこまで任せ、どこから人が判断すべきかを設計した例”

「なぜこの業務を選んだか → AIに任せる部分と人が責任を持つ部分の設計しやすさ」
～ 単なる効率化ではなく、評価軸・入力情報・人の関与を再設計 ～

全社表彰 AI & DDM Award

DDM : Data Driven Management

- 富士通グローバルで、組織的なAI & DDM実践事例を集め、表彰
- グローバルで8,000件の応募。人手の限界から、一次審査ではAI採点を導入

AI Award DDM Award

AI実践事例コンペとデータ分析コンペを開催！
全社変革の現在地を表出化するとともに、優秀な成果を全社表彰します

今年のコンセプトキーワード / /

DRIVE AI&DDM Award 2025

Let's DRIVE business forward with AI&Data!

— 全4つのコンペを同時開催 —

1 AI実践事例
コンペティション
リンク
社内AI活用実証による
急成長を遂げた部門コンペ

2 事業ブースト
コンペティション
リンク
One Fujitsu データ等を
使ったデータ分析コンペ

3 オープン
コンペティション
リンク
1114都市とコラボした
よりよい都市づくりを考える
データ分析コンペ

4 テクニカル
コンペティション
リンク
SIGNATE社とコラボした
予測モデルの精度を競う
データ分析コンペ

今年是最優秀賞の副賞がすごいらしい...！各コンペのリンクを要チェック！！



全社表彰審査へのAI活用：業務をAI前提で作り直した

- 効果：全体工数は30%減、1件あたりは80%減



- AI前提の業務リデザイン

AIを業務や組織の前提として捉え、継続的に活用できる仕組みを整備



企画・設計



実装/検証



適用判断・承認

取り組み① **ルールづくり**

評価軸・提出物・審査方法・AI設計

取り組み② **AIの信頼性向上**

公平性・妥当性を担保

AIに任せる/人間が介在する部分の設計力が成否を決める



評価軸の精緻化 (AI前提設計)

- 曖昧なニュアンスを排除
重み付け・判断基準を明示
- 社内用語の事前学習
(汎用LLMでは限界)

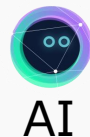


成果物の標準化 (構造化入力)

- wordテンプレート(タグ構造)
自由記述を制限
- 評価対象はテキストに限定
(図表は補助)



人×AIの ハイブリッド審査



定量・一貫性ある評価



全体理解・視覚的判断
(図・要約で認知を補強)

● 実装・検証段階で公平性や妥当性を担保する

- ・相対評価のばらつきを抑制（スイスドロー方式によるAI評価）
- ・AI評価と人評価の比較（順位・傾向分析） + 取りこぼし確認（AI非上位の再評価を人が実施）



2

【富士通社内実践】 ヘルプデスク業務

“業務特化＋データ活用＋継続運用の実装例”

「問い合わせ対応”を対象業務として選びました」

～ 問い合わせ対応という、件数・品質・工数が見えやすい業務、
AIを置いただけではなく、機密データの扱い、回答精度、評価作業まで含め設計 ～



年間 約 **5,000** 件の
問い合わせを削減、
オペレータの業務効率化



AIの正答率は約 **80%**
自己解決率向上



コスト削減は年間 **1億円** 見込

実践ポイント

① 機密データ保護

② 回答精度向上

③ 回答評価作業の効率化



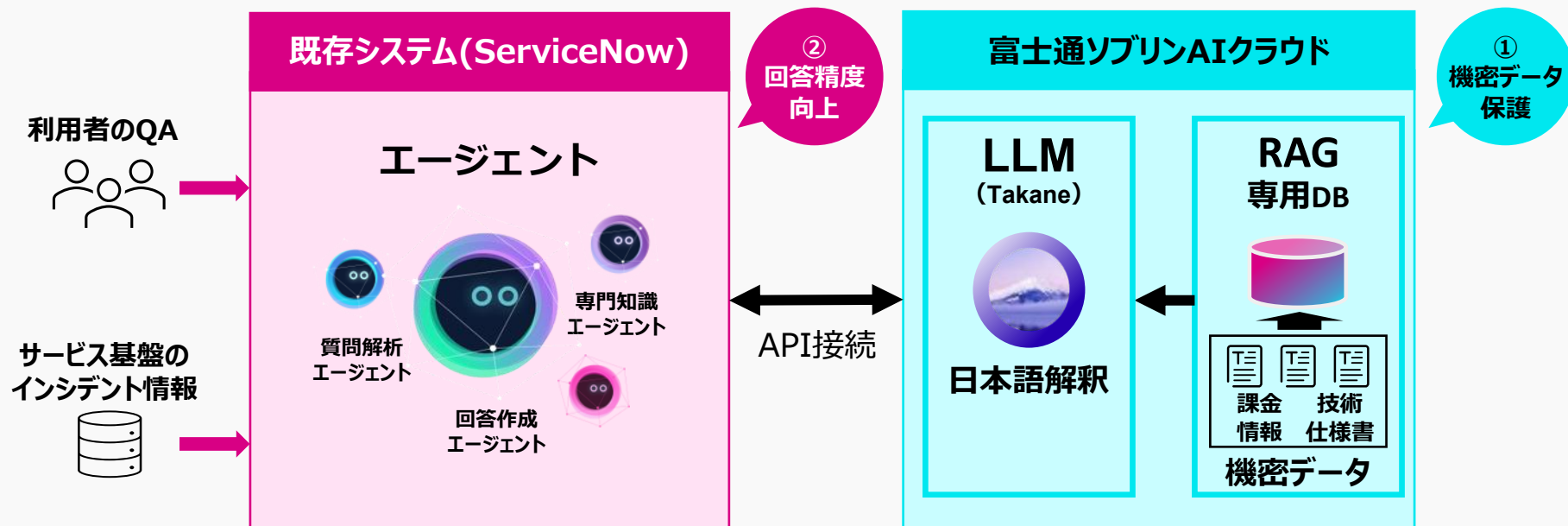
この業務は、“効果が見えやすい業務”として選定しました
汎用AIを使うだけでは足りません。

必要なのは、AIそのものではなく、業務で使い続けられる“基盤”です

①機密データ保護 ②回答精度向上

● 既存の業務環境(SaaS)を使う必要がある中、セキュア・高精度なAI環境をアドオン

- ①機密データ保護：RAGに登録する機密データをソブリンAIクラウドの専有領域に格納・保護
- ②回答精度向上：専門知識に辿り着く環境を整備（エージェント ↔ LLM ↔ RAG）



③ 回答評価作業の効率化 ～テストエージェント開発



PoCにおいて
回答の揺らぎの原因特定を
“人”が実施するのは困難



テスト時間
20時間⇒1時間



テスト用
AIエージェント

「適切な回答が得られない根拠」をAIが明確化

- AIが辿ったプロセスを正解データと突合
- 改善すべき箇所を特定



AIが成長するだけではありません、実は**人も変わります**。
オペレータがAIを使う人から**AIを育てる人**へ変わっていきます。

3

【ロート製薬株式会社様 事例】 サプライチェーン最適化

「個別業務ではなく、“部門をまたぐ業務”を対象に選んだ例」
～ 個別業務の効率化にとどまらず、
サプライチェーン全体をどう最適化するかという例 ～

ロート製薬のパーパスは「人を、社会を、明日の世界を元気にする」ことです。

ロートは、ハートだ。

Rohto

ロートは、ハートだ。

Rohto

Well-being & Longevity

私たちは、商品・サービスの提供にとどまらず、
一人ひとりの心身の健康 (Well-being) を実現し、
人と社会が健やかに続く未来 (Longevity) に
貢献します。

科学の力で、あらゆる人の健康に寄り添う6つの事業領域

アイケア	スキンケア	内服・食品	メディカル	再生・細胞医薬	アグリ・フード (新たなWell-being領域)
すべての人の 「見る」を支える	美しく 健やかな肌へ	毎日の健康と 予防をサポート	治療と予防に 貢献	再生・細胞技術で 未来の医療に挑戦	食・農業・香り・ペットなど 社会課題の解決に挑戦
					

1,000以上のSKUで、世界中の多様なお客様の悩みにお応えしています

世界中の人々の健康で
豊かな暮らしに貢献

-  信頼される
品質と安全性
-  先端の研究開発力と
技術力
-  現場での実装力と
価値創造力

CPS・AIを活用したモノづくりの進化
工場からサプライチェーン全体へ



CPS × AI

ヒト・モノ・情報をつなぎ、複雑なサプライチェーンを最適化

私たちの存在意義 (パーパス)

一人ひとりの人生に寄りそい、
健やかな未来をつくる。

～Well-being & Longevityの実現を、社会とともに～

-  信頼される
品質と安全性
-  先端の
研究開発力と
技術力
-  現場での
実装力と
価値創造力
-  持続可能な
地球環境への
取り組み

持続可能な社会の実現に向けて
カーボンニュートラル・資源循環・生物多様性の保全に取り組みます



創業

127 年超

1899年創業、
信頼と挑戦の歴史



売上高 (連結)

4,281 億円

(2026年3月期予想)
グローバルで持続的に成長



グループ従業員数

8,726 名

(2026年3月末時点)
多様な人材が挑戦する組織



研究開発費 (連結)

371 億円

(2026年3月期予想)
未来の価値創造に投資



グローバル展開

150 以上の国と地域

世界の人々の
Well-beingに貢献

多品種小ロットへの挑戦 → ロート製薬の競争優位性（戦略）

ロートは、ハートだ。



多様なお客様価値

幅広いお客様の悩みに寄り添い、
沢山の人の「よろこび・驚き」を届ける

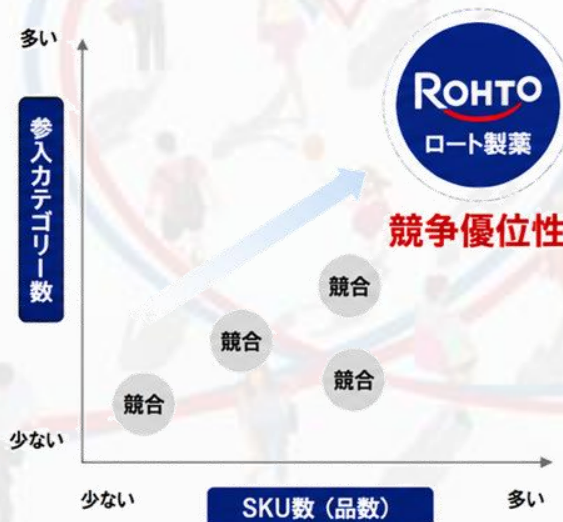


1,000以上のSKU

多様なお客様の悩みに寄り添う

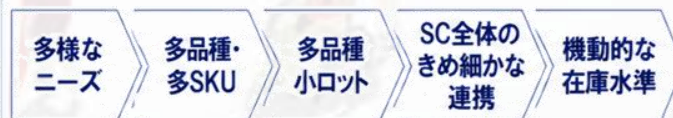
ロート独自のポジション

競合より「参入カテゴリ数が多い・SKU数が多い」
ポジションを、あえて選んでいる



競争優位性を支える仕組み

多品種小ロット生産を前提に、サプライチェーン全体で
きめ細かく連携し、機動的な在庫水準を維持する



SKUを減らして単純化するのではなく、**複雑性を支えられる**サプライチェーンへ進化する。

なぜ今、サプライチェーンにAIが必要なのか？

ロートは、ハートだ。



人の善意と経験だけでは、複雑化するサプライチェーンを支えきれない

誰も責められない。しかし、善意の上乗せが、全体として“ムリ・ムダ・ムラ”を生んでしまう

現状の課題



1 善意の上乗せによる過剰・欠落

- ・それぞれが良かれと思い安全側で判断
- ・在庫の過剰・欠品・廃棄が発生



2 複雑化による判断の属人化・遅延

- ・多様な商品・チャネル・制約条件が絡み合う
- ・経験と勘に頼った判断が多く、タイムリーな意思決定が困難



3 部門最適による全体の非効率

- ・部門ごとに目標や指標が分断
- ・全体最適の視点が弱く、調整コストやムダが拡大



調整業務・火消し対応が増え、
本来の意思決定や価値創造の時間が奪われている

AIを活用すべき領域を見極める

すべてをAIに任せるのではなく、業務の特性に応じて、最適な手段を選ぶ

ルール化・自動化で解決できる領域
既存のシステム・自動化で着実に改善



定型業務・
ルールが明確なもの



パターンが決まっている
繰り返し業務



データ連携・転記・
集計などの事務作業

複雑な判断にはAIを活用
人の経験とAIの最適化を融合



多数の条件が複雑に絡む
意思決定



需要・供給・在庫など
変動性が高い領域



人の経験・調整が必要な
高度な判断領域



AI・自動化で
人の時間を創出



人は本来の意思決定や
価値創造に集中

業務を理解したうえで、ルール・自動化とAIを最適に使い分けることが、
複雑性を支えるサプライチェーンの第一歩である。

完成したAIを単に導入するのではなく、現場で使えるAIを共に育てる。

ロートと富士通研究所が、知見と技術を持ち寄り、サプライチェーン全体の最適化に挑む

ロート製薬の役割

業務知見・判断基準・データ・現場を提供し、
AIを育てる実装主体となる



業務知見・判断基準

現場の経験や判断の考え方を共有



データ

需要・在庫・販売・生産・物流などの
実データを提供



現場

実運用の場を提供し、
仮説検証と改善を繰り返す



評価・改善の視点

業務・品質・コスト・サービスの観点で
効果を評価し、改善につなげる

サプライチェーンをつなぐ AIエージェント群



業務を
理解する

技術で
実現する

実際の業務で動かしながら、精度と運用をともに育てていく

富士通研究所の役割

AI技術・エージェント協調・継続改善の仕組みを提供し、
AIの能力を引き上げる



AI技術・アルゴリズム

予測・最適化・機械学習などの技術を提供



エージェント協調

複数のAIエージェントを連携させ、
全体最適の判断を支援



継続改善の仕組み

学習・評価・改善のサイクルと、
運用を支える基盤を提供



ガバナンス・セキュリティ

安全・安心な運用と、ルールに基づく
AI活用を支援

現場での実運用

(小さく始めて着実に拡大)



仮説検証・効果確認



課題の特定・改善施策



AIの学習・モデル改善



業務・運用への反映



✓ 精度向上

✓ 運用品質向上

✓ 業務効率向上

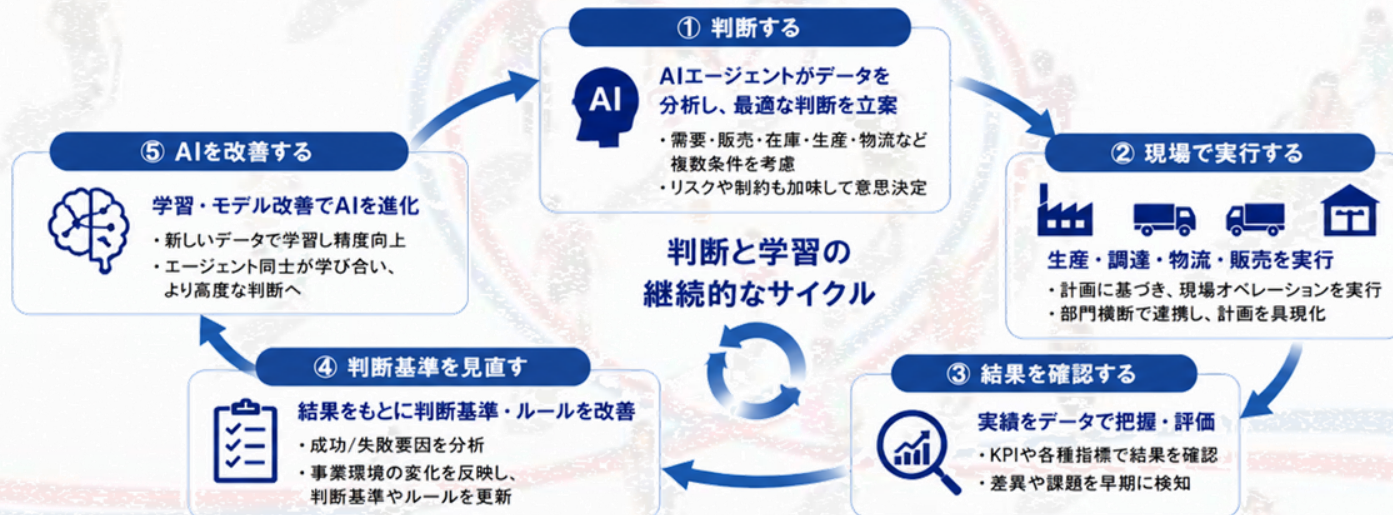
✓ 価値の拡大

ロートはAIの利用者ではなく、現場で使えるAIへ育てる**実装主体**になる。

共に考え、共に作り、共に改善し、サプライチェーンの未来を切り拓く。

AIエージェントで実現したい姿：判断と学習が循環するサプライチェーン

現場で動かし、結果から学び、判断基準とAIを常に進化させる



このサイクルが
もたらす価値



予測精度・判断精度の向上
迅速で的確な意思決定が可能に



在庫・物流効率の向上
過剰・欠品・滞留・偏在を抑制



収益性の向上
廃棄・値引・物流コストを削減



人の時間と創造力の解放
本来の意思決定や価値創造へ集中

自社のデータを持つことだけが主権ではない。
判断と学習のサイクルを、自社で回し続けられるからこそ、ロート製薬のソブリンAIである。

財務・業務・戦略のすべてに、持続的な価値を生み出す

財務インパクト (PL・BSへの効果)



在庫の最適化

過剰・欠品・滞留在庫を抑制し、
在庫金額を圧縮



廃棄・返品削減

需要に基づく計画と迅速な対応で、
廃棄・返品を削減



物流・保管コスト削減

輸送効率向上と在庫配置最適化により、
物流・保管コストを削減



売上・利益の向上

機会損失の抑制と収益性の高い商品への
リソース集中で、売上・利益を最大化



業務インパクト (SCの高度化)



需要変動への即応性向上

変化を早期に捉え、迅速に計画へ反映



SC全体の可視化と最適化

部門・工程を横断したデータ連携で、
全体最適を実現



調整・属人業務の削減

AIエージェントが調整・火消し業務を支援し、
業務負荷と残業・休日対応を削減



リスク耐性の強化

複数シナリオと予測により、
サプライチェーンのレジリエンスを向上



戦略インパクト (人・組織・未来への投資)



人の時間と創造力の解放

調整・定型業務から解放し、
本来の意思決定や価値創造へ集中



人材の成長と活躍促進

データとAIを活用した経験を通じて、
判断力・問題解決力を高める



持続可能性の向上

廃棄削減・資源の有効活用により、
環境負荷を低減し、社会に貢献



未来の成長機会の創出

得られたデータと知見を基に、
新製品・新サービス・新ビジネスを創出



在庫・廃棄・物流費・保管費を減らし、必要な商品に生産キャパシティを集中投資する

人が本来やるべきことに集中できる組織へ



データを基に
未来を見通す
意思決定を行う



お客様の声から
新たな価値を
生み出す



戦略・企画・開発など
創造性の高い仕事に
時間を使う



自己成長と挑戦を
通じて、一人ひとりの
可能性を広げる



人と企業が
ともに成長し、
未来を切り拓く

AIは人を減らすための仕組みではない。人と企業が、未来に必要な能力を育てるための仕組みである。

ロートは、ハートだ。

Rohto

ロート製薬様株式会社様との対談

まとめ

AIの活用の差は、技術の差ではなく
どの業務に入れ、どう育て、どう成果で回すか
で決まります。

本日の話を踏まえて、

- **AIに任せられそうな業務を選ぶ**
 - **その業務に必要なAIレベルを考える**
 - **小さく試して成果を図る**
- まずこの3つから始めてください。

信頼できるサブリンAIと実践知により
お客様の業務活用を支援、
変革と成長に貢献してまいります。

本日ご紹介内容の展示はこちら 地下2階



Thank you

■ Fujitsu Kozuchi Enterprise AI Factory **サイト**

➤ <https://global.fujitsu/ja-jp/offering/kozuchi-enterprise-ai-factory>

■ Fujitsu Kozuchi Enterprise AI Factory **に関するお問い合わせフォーム**

➤ <https://contactline.jp.fujitsu.com/contactform/csque34803/7105394>

